

」ができるまで

部を中心に、オイスカの幅広い活動や新着情報について、皆さんながら制作しています。しかしながら、その編集の様子る月刊誌の制作過程を、3月号を例にご紹介します。

スタート

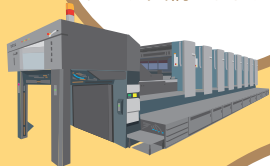
情報収集・取材

日々のあらゆる情報源から、特集号のテーマやTOPICの題材など月刊誌に取り上げるネタ集めを行い、ネタ帳に記録。また、行事やイベントに赴いたり、関係者へインタビューを行うなど、情報収集と取材を随時行っています。



ケーブルプリント入稿

再校校正後の原稿を、土肥さんから(株)ケーブルプリントにデータ入稿します。



2月14日 色校

来所された(株)ケーブルプリントの木村保さんより、月刊誌と同じ紙で印刷されたゲラを受け取ります。そのゲラを、トンボ*を目印にカットし、実際の冊子と同じサイズで、色の出方やミスを含め、全体を確認します。



(株)ケーブルプリント
木村保さん

印刷を担当

緑あふれる風景と世界中の人々の笑顔のページが多いので、刷色に注意して色校正(ゲラ)、本印刷を行っています。また、冊子は環境に配慮した“FSC認証紙”を使用しており、弊社で都度認証を受け、原稿にマーク(認証番号)を入れる作業も行っています。ゲラ持ち込みの際、事務所の皆さんの明るい笑顔にいつもホッとさせていただいています。

編集部 打ち合わせ

ネタ帳をもとに、月刊誌に取り上げる内容をあらかじめ選定。

2019年12月26日 編集会議

本部事務所内で月刊誌の構成や内容を決定します。



2月18日 色校戻し

土肥さんに、赤入れをしたゲラを戻します。この日、同時に4月号のテキストデータを入稿しました。



*印刷物の裁断位置を示すしるし

原稿の 依頼、作成

園田さん、「OISCA便り」の原稿400~450字と写真1~2点を1月14日までお願いします！

分かりました。
でき次第メール
で送ります！

2020年1月14日 依頼原稿 しめきり

編集部
倉本有沙

西日本研修センター
園田すみれ



オイスカ会員のみなさまに毎月お届けしている月刊OISCA。編集主に、より興味をもっていただけるよう、多くの方々のご協力を得は知る人ぞ知るところ。実は発行2ヵ月以上も前から取り組んでい

校正を担当

| 尙空舎
長澤立さん

校正では、文字の変換ミスや文字遣いの誤りを直すのはもちろんですが、オイスカの場合にはとくに、読者の方々に文意が誤解なく伝わるよう、そのことに留意しながら何度も読み返しています。



2月5日 再校

まず初校時に赤を入れたところが直っているかを確認。同様に、依頼原稿の再確認の依頼のほか、ゲラを事務所内でも回覧し、さらに修正箇所がないかチェックします。

2月10日

再校戻し

赤入れをして、土肥さんに戻します。

1月30日 初校戻し

ゲラに赤入れ（修正）をして、土肥さんに戻します。



製本

ゴール! 完成! (納入)



印刷



1月24日 初校

土肥さんがデザインしたゲラ*を元に、最初の校正を行います。依頼した原稿は、間違いや修正がないか、メールでPDFデータを送付し、執筆者に確認をとります。初校と再校は、尙空舎の長澤立さんにも校正を依頼します。



※校正用の試し刷り

下版

園田さま
原稿の確認を
お願いします。
倉本

プルーフ 校了 (試し刷り)

土肥さんは入稿、初校上がり、初校戻し、再校上がり、再校戻し、色校戻しのタイミングで事務所に来所、打ち合わせを行います

1月17日 入稿

アートディレクターの土肥幹人さんが来所。構成やレイアウトイメージを伝え、入稿します。



デザインを担当

| アートディレクター
土肥幹人さん

オイスカ誌の内容は毎月多岐にわたり、世界情勢から身近なものまでさまざまです。そういった内容を読者の方々に、興味をもっていただけるよう、分かりやすい誌面づくりを心がけています。

編集

原稿を入稿できる形に整えていきます。誌面に収まるように文字数を調整したり、新聞用字用語集を用いて、表記やかなづかいを統一したり、各コーナーに合わせ、文体を統一します。

